

四月のテーマ 喜ばせる生活

# まず やって みよう

丸山竹秋

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所二代目理事長・丸山竹秋（一九二一—一九九）のこぼれ話を掲載します。



え・城谷俊也

**う** そか、ほんとか、やってみる。疑ってもよい。怪しんでもよい。とにかく、やってみて、間違いはないか、どうか。自分の眼で、自分の手足で、自分のからだ

で、しかと確かめる。そして、確かにその通り、間違いなしと分かったら、素直にその事実を認め、さらに次の新しい段階に進んでいく。

これは、いわば科学的方法である。名づけて実験実証という。純粹倫理の実践は、まさにこの実験実証を行なうことに他ならない。

たとえば決心について……。決心は九分の成就である、本当にやろうと思ったら、そのことはできる、と言われている。よいことをしようと思えば、そのときすでに九分通りできている、決心しなければできない、というのである。

朝五時に起きようと心を決めると、本当に起きられる。そんなに早く起きられるものか、第一、目が覚めはしないと思う向きもあるかもしれないが、論より証拠やっ

てみることだ。疑ってもよいから、それはそれとして明朝は五時に起きようと、とにかく心をハッキリと決めることだ。

たとえば休む前に床の上にきちんと坐り、明日は五時に起きましようと思を決めるのである。ある人は、枕を五回ポンポンと軽く叩く。そして、「頼みますよ」と言って、床に入り、ぐっすり休む。

やがてポツカリと目が覚める。起きて時計を見る。ちょうど五時を指している、といった具合である。

こうして実験例は非常に多い。そして本当に決心したら、朝その通りに起きられた。起きられなかったときは、本当に決心していなかったときだと、実験をしたすべての人が語っている。

個人的なことだから、さらに離れて団体のことになると、複雑さが加わって、難しいことも多くなる。しかし月の世界に飛んでいこうと決心し、何人かが寄って実験をつみ重ねていくと、それもとうとうできるのである。会社やいろいろの団体で、目標を立てて、それを

貫こうと本当に決心をすれば、案外簡単にできることもしばしばあるのである。

初めは多少ゴタゴタしているように見えても、決心さえはつきりしておれば、やがてそれは必ず達成できる。それができないのは決心がはつきりしておらず、他から押しつけられた感じで、厭々ながらのものであったり、結果に囚われすぎていて、固くなりすぎたり、何かつかれるとすぐ崩れてしまふようないかげんなものであったり……。そうした心の決めにまず問題があるのである。

純粋倫理は、ことごとく、こうした科学的な実験実証の結果、間違いなしと打ち立てられたものばかりである。私たちはこの倫理の一々を朝に晩に自分でやって、やって、やり通し、その間違いのないことをいよいよ確かめ、生きていく喜びと信念をはつきりさせよう。それが同時に社会を健全化し、明朗化することにつながるのである。

（『繁栄の法則』より）

（『繁栄の法則』より）